TTC ゆった～り山行実施記録表　2018年3月08日　報告者: Y.M（1/6）

山行名	**奈良歴史ウォーキング　〔奈良県〕** **（平城京跡･興福寺･東大寺大仏殿･二月堂修二会／山辺の道／長谷寺・室生寺）**
実施日	平成30年3月01日(木)～03日(土)　2泊3日　　公共交通機関利用
天候／参加人員	天候：ｺｰｽﾀｲﾑ欄に記載　レベル：★★　参加者：申込12名/実施12名（男3名／女9名）
ﾊﾟｰﾃｨｽﾀｯﾌ	省略
参加メンバ	省略
費用 **一人；48､651円** (小田原起点：JR ｼﾞﾊﾟﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ30%割引利用9人) 同上(20%割引利用2人)::51,051円 ｶﾝﾊﾟ金290円	**４８、６５１円(交通費￥21,083+宿泊費￥22,745+拝観料･雑費･通信費･ｶﾝﾊﾟ金等¥4,823)** **交通費**　JR(ｼﾞﾊﾟﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ30%割引利用;9名)往路乗車券+新幹線座席指定券(小田原ー奈良)@16,900/同左20%引利用;2名@19,300、ﾀｸｼ代(大和西大寺→平城京遺構展示館;3台)¥2940、同左(天理駅→石上神宮;3台)¥3,450/ﾀｸｼ代合計¥6,390/12人：一人当たり@533、個人対応現地交通費(PASMOｶｰﾄﾞ支払い):近鉄(京都→西大寺@560、西大寺→奈良:@190、大和朝倉→長谷寺:210、長谷寺→室生口大野:@300、室生口大野→京都:@1,140）/近鉄支払額合計@2400、JRまほろば線(奈良→天理)@210、奈良市内ﾊﾞｽ（@210x3回）@630、室生寺→室生口大野:@430/個人支払い現地交通費合計@3,650/**①交通費合計(JR30%引利用ﾒﾝﾊﾞの場合)：@21､083、宿泊代**：3/1ﾎﾃﾙｱｼﾞｰﾙ奈良:ﾙｰﾑﾁｬｰｼﾞ代(早割+株主割等利用:和室1+洋室4室)@6,545+和食膳夕食:@3､240、3/2長谷寺旅館井谷屋(ﾄｲﾚ付和室4室/夕朝食付)@12,960/**②宿泊費合計@22,745、　その他の費用：**拝観料（興福寺国宝館･東金堂共通拝観券@900、東大寺大仏拝観券@600、長岳寺拝観券@350、長谷寺入山料@500、十一面観音特別拝観料@1,000、大野寺拝観料@300、室生寺拝観料@600）一人当たり拝観料合計@4､250、雑費:夕食時ﾋﾞｰﾙ700x5本¥3500/12＝@292、朝食前行動用｢焼餅｣@90/雑費合計@382、通信費¥2,000/12人：@167/TTCｶﾝﾊﾟ金¥290/12:@24／**③その他の費用合計@4,823**　　**総費用（①+②+③）@48,651(JR30%割利用)**

所要時間 *当初計画。実行時歩行を一部短縮	3/01(木)　①平城京跡+②興福寺ー東大寺+③二月堂修二会／歩行距離:約12km	3/02(金)　山辺の道（天理石上神宮→崇神/景行天皇陵→大神神社→大和朝倉／歩行距離:約15km	3/03(土)　①長谷寺参詣+②室生口大野→大野寺→室生寺→奥の院参拝／歩行距離:約10km
	歩行/行動時間	歩行/行動時間	歩行/行動時間
ガイドブック	―	歩行時間5:50	歩行時間②2:25
計画(行動)	①　3:00+②2:30+③3:00	～8:00	①　2:00+②4:00
実行(歩行) (行動)	①　1:00/②1:08/③0:39 ①2:23/②2:37/③2:34	歩行4:50/行動7:20*	①　0:15/②　3:15 ①2:17/②4:28

コースタイム　　*計画段階での歩行距離17.5kmを実行段階で～15.kmに短縮

◆3/01(木)　天候:雨のち晴時々曇/気温max16℃(歩行2:47/行動時間7:34/歩行距離～12km/歩行数～19,500歩)

小田急線(集合6:55)　ひかり501（Kさん待合せ）近鉄京都線急行　ﾀｸｼｰ3台　0:15　0:13　（昼食）　0:32

本厚木＝＝小田原＝＝JR京都駅/近鉄京都駅＝＝大和西大寺駅＝＝平城京遺構展示館――第一次太極殿――遺跡資料館――

6:10　6:53/7:04　9:14---　9:24　10:07/10:20　10:27/10:45　11:00/11:14　11:27/12:18

近鉄　0:08　奈良･天平仏像鑑賞　0:25（盧舎那仏拝観）　0:15　0:20　奈良交通ﾊﾞｽ

西大寺駅＝＝近鉄奈良駅――興福寺(南円堂･五重塔･東金堂･国宝館)――東大寺大仏殿――二月堂･法華堂――東大寺ﾊﾞｽ停＝

12:50/12:34　12:43　12:50----　13:35　14:00/14:20　14:35/15:00　15:20/15:30

0:02　（休憩）　奈良交通ﾊﾞｽ　0:20（お水取り神事参加）0:19　奈良交通ﾊﾞｽ　（和食膳夕食）

＝油阪ﾊﾞｽ停――ﾎﾃﾙｱｼﾞｰﾙ奈良＝＝東大寺入口ﾊﾞｽ停――二月堂修二会――東大寺入口ﾊﾞｽ停＝＝油阪･ﾎﾃﾙｱｼﾞｰﾙ奈良(泊)

15:38　15:40　/17:00　17:15　17:35/19:30　19:49　19:58---20:00到着

◆3/02(金)　天候:晴/気温max12℃（歩行4:50/行動時間～7:20/歩行距離:～15km/歩行数～30,000歩)

朝食7:00～（柿の葉鮨購入）まほろば線/ﾀｸｼ3台　0:18　0:22　（ﾄｲﾚ休）　0:15（ｴﾈﾙｷﾞﾁｬｰｼﾞ）　0:19　0:37

Hｱｼﾞｰﾙ――JR奈良駅＝＝＝天理駅＝＝石上神宮――内山永久寺跡――天理観光農園――夜都岐神社――竹ノ内環壕集ー

7:58　8:04/8:35　8:50/8:55　9:08/9:27　9:45　10:07/10:20　10:35/10:43　11:02

0:24（書院･本堂見学）0:05(昼食)　0:08　0:21　0:47　0:07　0:07　0:08

――衾田陵――長岳寺――天理市ﾄﾚｲﾙｾﾝﾀ――崇神天皇陵――景行天皇陵――檜原神社――玄賓庵――狭井神社――

11:39　12:03/12:40　12:45/13:17　13:25　13:46/13:49　14:36/14:55　15:02　15:25/15:30

0:05　0:05（ﾄｲﾚ休）　0:13　0:29　近鉄大阪本線　送迎ﾊﾞｽ　（夕食 18:30～）

大神神社――平等院――金屋の石仏――仏教伝来之地碑――大和朝倉駅＝＝長谷寺駅＝＝長谷寺温泉旅館井谷屋(泊)

15:38/15:40　15:45/15:51　15:56/16:05　16:18　16:47/16:52　16:55/16:58　17:05 到着

◆3/03(土) 天候:晴/気温 max16℃ （歩行 3:30/行動時間 6:45／歩行距離:～10km/歩行数～22,000歩）

起床 5:30　0:14(朝行/特別拝観) 0:11(朝食)送迎ﾊﾞｽ　近鉄大阪本線　0:07　(阿弥陀断崖仏/240m)0:19　0:14

井谷屋――長谷寺本堂――――井谷屋＝＝長谷寺駅＝(榛原乗換)室生口大野駅――大野寺―自然歩道入口―室生寺 4km 道標

6:28　6:42/8:34　8:45/9:23　9:27/9:40　10:00/10:09　10:16/10:42　11:01　11:15

0:26　0:16(ｴﾈﾙｷﾞｰﾁｬｰｼﾞ)0:20　0:17　0:19　(昼食)　0:03　(374m)　0:27　(443m)　0:15　0:12

―3.1km 道標――　徒渉点――門森峠(標高 534m)――芸術の森――橋本屋食堂――室生寺受付――奥の院――室生寺受付―

11:41　11:57/12:06　12:26　12:43　13:02/13:32　13:35　14:02/14:10　14:35

奈良交通ﾊﾞｽ　近鉄快速　近鉄京都線急行　(ﾐﾔｹﾞ・駅弁購入)　ひかり 532　小田急線

室生寺ﾊﾞｽ停＝＝室生口大野駅＝＝大和八木乗換＝＝近鉄京都駅/新幹線京都駅＝＝小田原駅＝＝本厚木

14:47/15:30　15:44/15:53　16:13/16:47　17:50　18:32　20:35/20:45　21:25 到着

コースの概要、特記事項、反省事項等

◆計画立案段階：2 年ほど前の冬、奈良の「山辺の道」を歩いた事がある。この街道は、飛鳥から桜井を経て、奈良の東に連なる山裾を辿り、春日大社・東大寺を経て、平城京に至る全長約 35km に及ぶ、万葉集にも登場する大和朝廷誕生期頃からの日本最古の幹線道として知られている。そのうち、南部の天理市石上神宮から、崇神･景行天皇陵を経て、原始神道の様式が色濃く残る日本最古の神社群「大神神社」を経て桜井に至る約 17km の山辺の道は、見所も多く、東海自然歩道に指定されて、道標やﾄｲﾚ等も完備されているので、万葉集や古事記、卑弥呼のﾛﾏﾝを感じながら、のんびりと里山歩きが楽しめるｺｰｽとして人気がある。実際に歩いてみると、TTC のゆった～り山行として歩くのに最適なｺｰｽであると実感し、近いうちに TTC の仲間と歩いてみたいと思っていた。折角奈良まで行くのであればと、それに加え、奈良に春を告げる神事として有名な「東大寺二月堂のお水取り(修二会)」参観、最近発掘調査が進んで整備されつつある平城京遺跡見学、この 1 月 1 日に新規ｵｰﾌﾟﾝした興福寺国宝館に展示されている「阿修羅像」をはじめとする奈良･天平時代の多数の国宝級仏像鑑賞、日本最大の十一面観音を本尊とする長谷寺の朝の勤行体験、伊勢道の南山中に佇む女人高野「室生寺」に、峠越えの古の参詣道を辿って参拝する等、盛り沢山の見所･ｲﾍﾞﾝﾄを加えた 2 泊 3 日行程の奈良歴史ｳｫｰｷﾝｸﾞ旅」を立案して、3/1-3/3 の日程で提案したところ、12 名のﾒﾝﾊﾞから応募があった。そこで、12 名のﾒﾝﾊﾞで、上記ﾌﾟﾗﾝの歴史ｳｫｰｷﾝｸﾞを実施する運びとなった。

◆3/01(木)：2/26 時点の天気図や天気予報から、2/28 夜～3/1 朝にかけて、低気圧が発達しながら日本海を通過する典型的な爆弾低気圧による荒天が予想された。出発する 3/1 早朝に、南からの春一番の強風が吹くと、小田急線や東海道新幹線に遅れや最悪運休になることが危惧された。そこで、参加ﾒﾝﾊﾞ全員に、1 電車早い電車で小田原に向かってもらう。万一小田急線が大幅に遅延したり、運休して、予定の新幹線に乗車できなかった場合の緊急対応についてお願いのﾒｰﾙをした。また、始発の東京駅から新幹線に乗車するＫさんとも何度も情報をやりとりして遺漏がないよう、事前に対応できる対策を行って、あとは幸運を祈りながら出発日の朝を迎えた。

3/1 の早朝、ﾄﾞｼｬ降りの雨であったが、畏れていた強風は吹いていなかった。危惧していた小田急線も新幹線も定時運行しているのを確認して安堵した。11 名のﾒﾝﾊﾞが余裕をもって小田原駅に集合し、東京駅乗車のＫさんも予定通り乗車した旨のﾒｰﾙを受けて、これで安心して旅ができると確信し、一気に旅ﾓｰﾄﾞにｽｲｯﾁを切り替えることができた。静岡を過ぎる頃には、雨も止み、西に位置する奈良の天候は更に回復していて、楽しい旅ができるものと期待できた。

京都駅でＫさんと落合い、近鉄に乗り換えて大和西大寺で下車。ﾀｸｼ 3 台に分乗して、遺構展示館に向かった。遺構展示館は、710 年に藤原京から、この地に遷都し、以後長岡京遷都するまでの 74 年間、この地にあった平城宮の宮内庁跡の発掘現場の一部を建物で覆って、展示しているもので、お願いして丁寧に説明して頂いた。約 70cm 厚の水田跡地層の下に柱の穴跡や水路跡等が整然と並んでおり、発掘された丸い木柱や大木の幹をくりぬいて作られた井戸の遺構等が展示されている。発掘調査後には、埋め戻されて、厚さ 1m ほど盛り土をして保存しているという。都が平城京から長岡京に遷都した際、建物の大半は取り払われて更地になった。それ以降、この付近一帯は水田となって、ほとんど開発されることなく、ほぼ完全な形で保全されてきたという。最近になって文化庁が中心になって発掘調査が進み、ようやくその全容が判明し、2010 年には遷都 1300 年を記念して、第一次太極殿が復元され、現在、無料で公開されている。

この後、基壇の上に礎石が残る第二次太極殿跡を見学しながら、7 年前に復元された第一次太極殿に向かった。純白の壁に朱色の柱や梁･軒の見事なｺﾝﾄﾗｽﾄ、そして、2 層の瓦葺の大屋根の両端に載る「しび(沓形)」が太陽の光を浴びて、黄金に輝く荘厳な太極殿は正に平城京の中心にふさわしい宮殿として復元されていた。太極殿の内部に入ると、大空間の中心に 6 角形の厨子が置かれた高御座に天皇が着座する玉座が置かれ、正面からは、広場を挟んだ南 700m 先に復元されたばかりの朱雀門が手に取るように見渡せた。

太極殿を正面から眺めながら、平城京跡の西端にある平城京跡資料館に向かった。この資料館　(3/6)
には、発掘作業で出土した多数の木簡や土器類、穀物の種や魚介類の骨、人糞等が展示されており、木簡に墨書されている内容や出土品・住居跡等から、当時の生活の様子がかなり解明されたという。当時の貴族や官僚が食べていた食事の内容。また、正倉院の収蔵品の中から見つけ出された、帝の寝所の仕切りや畳敷きﾍﾞｯﾄ、寝具等の展示もあり、奈良時代の人々の暮らしぶりを展示物や説明員の説明で実感できた。平城京跡の発掘調査は文化庁が主体で現在も継続実施中で、その考古学的成果は素晴らしいものがあると感じた。なお、宮廷と官庁があった平城宮は北側の太極殿から朱雀門までの南北約 1km/東西約 2km のｴﾘｱであるが、平城京の市街地は朱雀門の南約 3km の羅生門（大和郡山市）まで続く朱雀大路の左右に広がり、人口は約 10 万人であったと推定されるという。10 名が初訪問で、昔日本史で学んだ平城京に納得顔だった。

資料館の休憩ｽﾍﾟｰｽをお借りして昼食を摂ったのち、東宮庭園や朱雀門等の見所は割愛して、次の目的地に向かうため、近鉄奈良駅に電車移動。商店街を抜け、興福寺境内に入ると、興福寺最大の建物「中金堂」が目に入るが、10 年以上再建工事が続けられており、昨年 10 月に落成したとものと勘違いしていたが、落成は今年 10 月とのことだった。西国 33 観音霊場第 9 番札所で、本尊「不空羅索観音」を祀る南円堂、国宝「五重塔」(6 代目として 1426 年再建)、東金堂の本尊[薬師如来座像(室町時代作の銅造/座高 225cm、重文)、日光・月光菩薩、国宝四天王像(平安時代)や国宝の十二神将立像・文殊菩薩座堂(鎌倉時代)等を鑑賞。続いて、今年 1/1 に新規ｵｰﾌﾟﾝした国宝館に場所を移し、興福寺所蔵の珠玉の国宝/重文仏像群等をじっくり鑑賞した。中央に巨大な国宝「木造千手観音菩薩立像」(座高 5.2m、鎌倉時代)が置かれ、国宝の仏像だけでも、2 体の木造金剛力士像、木造天燈/龍燈鬼立像(以上鎌倉時代)、銅造仏頭(白鳳時代)、脱活乾漆造十大弟子立造、阿修羅像で有名な脱活乾漆造八部衆立造(以上奈良時代)、木造板彫十二神将像(平安時代)等々、素晴らしいの一語に尽きる仏像群に全員時間を忘れて感激して見入った。

運慶の巨大な阿吽の仁王像が収まる南大門を潜って東大寺に入り、ﾒﾝﾊﾞ全員が一度は対面したことのある東大寺大仏「盧舎那仏」を見学するかどうか？ﾒﾝﾊﾞに希望を聞いたところ、見たいと希望するﾒﾝﾊﾞが大多数であることから、久しぶりに大仏殿を訪れた。数十年前の修学旅行で潜った大仏殿の大柱の穴にもう一度潜ってみたいというﾒﾝﾊﾞがいたが、中国人観光客の大行列で望みは叶わなかった。今夜の修二会の準備に余念のない二月堂の舞台に上がって、東大寺界隈を眺め、東大寺で唯一創建時の建物が残る法華堂を見学してから、東大寺を後にして、ﾊﾞｽで近鉄奈良駅と JR 奈良駅の中間に位置する今夜の宿泊先「ﾎﾃﾙｱｼﾞｰﾙ奈良」に 3:40pm に早めのﾁｪｯｸｲﾝ。修二会参観に出かけるまでの間、しばしの休息ﾀｲﾑとした。

今日は東大寺開祖良弁僧正の高弟実忠和尚が、二月堂本尊の十一面観音菩薩の仏前で、普段の過ちを懺悔し、鎮護国家、天下泰安、風雨順時、五穀豊穣、万民快楽を祈る法会として 752 年に創始し、「不退の行法」として、これまで一度も途絶えることなく続いており、お水取り(修二会)の行事が終わると、古来より奈良に春が来るといわれている。今年は第 1266 回修二会で、この法会は 3/1-3/14 の 2 週間行なわれる。今日は修二会の初日ではあるが、平日なので、会場の二月堂前広場に 6:00pm までに到着すれば、よい場所がとれるとの情報に基づき、ﾎﾃﾙを 5:00pm に出発し、東大寺入口までﾊﾞｽに乗車して、二月堂会場には 17:35pm に到着できた。修二会が始まる 7:00pm までまだ 1 時間以上時間があることもあり、二月堂舞台下の竹矢来で囲われた斜面の特等席もまだ見物客はまばらだった。大松明の火の粉を浴びると、1 年無病息災に過ごせるご利益があると言われることから、ほぼ半数のﾒﾝﾊﾞは斜面の前方でｽﾀﾝﾊﾞｲし、残りﾒﾝﾊﾞは火の粉を浴びて防寒着に穴が空いては困ると竹夜来の外で待った。6:00pm を過ぎると急に人が増え、広場は人でほぼ埋まった。夜になって気温が下がり、寒い中で 1 時間以上待つのは結構つらいものがあった。7:00pm になると、大鐘が撞かれ、照明が消えて暗闇になると、東大寺僧侶の中から選ばれた 11 人の練行衆のうち、先に入堂している「処世界役」の 1 人を除く 10 名の練行衆が、赤々と燃え上がるお松明に先導され、左側の石段をほぼ 2 分おきに駆け上がって上堂する。その際、舞台の欄干の外に差し出された長さ 6m/重量約 30km の燃えさかる大松明が打ち振られながら、舞台を走ると、大きな炎が上がり、火の粉が舞うと大歓声が上がり、神事は最高潮を迎える。20 分間に 10 本のお松明があがり、7:20pm に本日の修二会は無事終了した。12 名中 10 名のﾒﾝﾊﾞは初体験の修二会の神事を体験して高揚した気分のままﾎﾃﾙの戻り、予約してあったﾎﾃﾙでの夕食和食膳を全員美味しく完食し、男女入れ替制の大浴場で、早朝からの大雨の中での行動と 19500 歩のｳｫｰｷﾝｸﾞの疲れと汗を流して早々に眠りについた。

◆3/02(金)：7:00AM からのﾎﾃﾙでのﾊﾞｲｷﾝｸﾞ朝食を済ませ、7:58AM にﾎﾃﾙを出発。徒歩 8 分ほどの距離にある JR 奈良駅に隣接するｽｰﾊﾟｰﾏｰｹｯﾄに立ち寄って、昼食として奈良名物の柿の葉鮨を買い求めてから、JR 奈良駅 8:35 発の万葉まほろば線に 15 分乗車して天理駅で下車。当初計画では、山辺の道のｽﾀｰﾄ地点となる天理駅東 2km の距離に位置する石上(いそのかみ)神宮まで歩く予定にしてあったが、足に不安のあるﾒﾝﾊﾞから出されていた歩行距離短縮の要望も考慮して、この区間をﾀｸｼ利用に変更した。それぞれの運転士にお願いして、天理教本部前を経由してもらった。それぞれのﾀｸｼ運転士から、13 分ほどの短い乗車時間ではあったが、独特の教義を有する天理教発祥の地であり、天理教の街である天理市の主要な建物や天理教の成り立ち等について説明を受け、天理教と天理市について、多少なりとも理解出来たようだ。

崇神7年/紀元前91年創建と伝えられる飛び切り古くからある石上神宮は、大和朝廷の武器庫で　(4/6)
代々物部氏が守護していたという。本来は拝殿奥の禁足地を祀っていたため、神殿はなかったが、軒下から神剣「布都御魂」が出土し、これを御神体としたため、神剣を祀る現在の本殿が1913年に建造された。
平安時代に宮中の神嘉殿を移転した拝殿は国宝に指定されている。我々が到着したのは午前9時過ぎ。大勢の方が、庭を掃き清めている最中で、その合間に神の使いとされる沢山のﾆﾜﾄﾘが賑やかに走り回っている姿がﾕｰﾓﾗｽだ。烏骨鶏や立派な鶏冠と尾羽をもった雄鳥が多く、我々が準備体操をしていると、人なつこく寄ってきて愛嬌を振りまく姿は、神がﾆﾜﾄﾘに化身したかのようだ。会員制釣堀の標識のある布留目池を左に見て、集落の中に下った先の柿畑が広がる丘に、木堂池と呼ばれる池が有り、傍らに内山永久寺跡の石碑。明治の廃仏毀釈で、かつての大伽藍は荒れ果て、現在は石碑と池だけが残る廃墟になってしまった。
のんびりと里山歩きを楽しんでいると天理観光農園の看板のあるｶﾌｪに到着。ﾄｲﾚ休憩と、ｶﾌｪ内で販売している1個80円の地元産ﾈｰﾌﾞﾙｵﾚﾝｼやﾊｯｻｸ、干し柿等を買い求めるﾒﾝﾊﾞが多かった。この先進むにつれて、春蜜柑をはじめ黒豆等の地元農産物の無人販売所が多くあり、南に行くほど、値段が段々安くなって、ﾃﾞｺﾎﾟﾝやﾊｯｻｸが3～4個で100円と格安で販売中で、女性ﾒﾝﾊﾞの中にはかなり買い込んだﾒﾝﾊﾞも。余りの安さについ手が出てしまうが、ｻﾞｯｸが重くなることを考えると、そう易々と買うわけには行かない。
15分ほど歩いた先の夜都岐(やとぎ)神社境内で、ｴﾈﾙｷﾞｰﾁｬｰｼﾞを兼ねて一休み。春日大社の4神を祀った赤色の4棟の本殿前に、素朴な茅葺屋根の拝殿があり、両者のｱﾝﾊﾞﾗﾝｽ具合が面白い。20分ほど進んだ先では、集落の周囲に堀を巡らした竹ノ内環濠集落や菅生環濠集落の中を歩いた。これら集落は戦国時代に敵から集落を護るため、村の周囲に用水路兼用の壕を巡らせ、集落への出入りは小橋のみという環濠集落が今なお往時の姿を留めている。菅生集落の方は、古墳を囲む水濠を旨く利用していた。
この先、「衾田陵」の道標に導かれて、山辺の道を左に外れて5分ほど進むと、宮内庁管理の「衾田陵」の看板がある大型の古墳に出会う。この森に覆われた全長234の大型の前方後円墳は、西殿塚古墳とも呼ばれ、その東の少し離れた処に、一回り小ぶりな東殿塚古墳が並んでいる。宮内庁の説明板によると継体天皇の皇后で欽明天皇の母にあたる手白香皇女の墓とされ、この付近で最大規模の古墳である。菅生周辺には「菅生の千塚」と呼ばれる多くの古墳が点在しており、周辺部の発掘調査結果では4世紀前半の築造と推定されており、手白香皇女は6世紀の人物であることから、被葬者をこの皇女とするには大きな疑義があると言われている。
広大な斜面に柿畑が広がり、所々に紅白の梅花が彩りを添える里山の風情を楽しみながら、また、時折道端の柿本人麻呂等の万葉歌碑を楽しみながら進むと、高野山真言宗長岳寺に到着。この寺は、824年弘法大師が大和神社(大和に鎮座する神々の主神である「日本大國魂大神」を祀る。JRまほろば線長柄駅東約1kmに鎮座)の神宮寺として創建した古刹）に到着。大門を潜ってﾂﾂｼﾞの参道を進むと、地蔵院・普賢延命菩薩を本尊とする地蔵院本堂(1630年築/重文)があるので、これを見学後、空海創建時から残る唯一の建物で、日本最古の鐘楼門(重文)を潜り、本堂(1783年再建)に上がって、本尊阿弥陀三尊(1151年/重文)や多聞天・増長天(藤原時代/重文)等の仏像を参拝した。大門まで戻ると、その横にﾚｽﾄﾗﾝ併設の立派な天理ﾄﾚｲﾙｾﾝﾀがある。時間も丁度昼食時刻の12:45pm。早速ﾄﾚｲﾙｾﾝﾀ内で、今朝購入した柿の葉鮨や先ほど買い求めたﾐｶﾝ類、ｺｰﾋや暖かいお茶を飲んで空腹を満たし、喉を潤し、休憩を兼ねての約30分のﾗﾝﾁﾀｲﾑ。
ﾄﾚｲﾙｾﾝﾀから歩き出すと、すぐに大きな水濠に囲まれ、密度の濃い森林に覆われたﾎﾞﾘｭｰﾑある小山が現れ、水濠を半周するように進んだ。この古墳が、全長242m前方後円墳の崇神天皇陵だ。大和朝廷の基盤を築いたとされる第10代の崇神天皇は、記紀によればBC97年～BC30年までの68年間在位し、120歳まで生きたとされる天皇だ。更に20分ほど歩くと、景行天皇陵とされる全長300mの前方後円墳に出会う。第12代の景行天皇（在位AC71年～AC130年までの60年間、137歳または143歳まで生きたとされる）は、山愛好者の我々に馴染みのある日本武尊の父とされ、おおよそ2000年前に在位した天皇である。2つの陵とも、宮内庁が管理し、発掘調査が実施されていないので、詳細は分かっていない。
第10代の崇神天皇以降の天皇は、ほぼ確実に実在した天皇であると言われている。なお、この崇神天皇陵のすぐ西側の黒塚古墳（全長130mの前方後円墳）からは、三角縁神獣銅鏡33枚が出土し、茶臼山古墳から81枚が出土し、魏志倭人伝記載のAC240年銘の銅鏡片も見付かっている。景行天皇陵の南西側の纒向地区から、最近大規模な住居跡が発掘され、更に西に位置する箸塚古墳が、魏志倭人伝に記載されている卑弥呼の墓の大きさと合致し、魏志倭人伝に記載されている卑弥呼の墓の作られた時期と、古墳の発掘で分かった箸塚古墳の成立時期の差異はわずかだという。これらの事実から、邪馬台国九州説に対抗する畿内説では、この纒向付近に卑弥呼が統治する邪馬台国の都があったと主張している。いまだ決着をみない卑弥呼と邪馬台国の所在位置を巡る古代ﾛﾏﾝの興味はつきない。
行く手に大物主大神が降臨した神の山「三輪山(標高467m)」のたおやかな山容、その右手に広がる大和盆地の先に高みを見せる畝傍山(199m)、耳成山(139m)、天香久山(152m)の大和三山、大和と摂津の國境に聳える金剛山(1121m)や葛城山(959m)、双耳峰の二上山(雌岳474m/雄岳517m)の山脈を眺めながら、「山辺の道」の道標に導かれてのんびり歩き、県道50号線に出会ったところで、左折して纒向川の上流に向かって、県

道 50 号線を東に向かう坂を標高差にして 50m ほど登ると、檜原神社の標識に導かれて、山裾を　　(5/6)
巻くように付けられた山道を辿ると、程なく檜原神社に到着する。檜原神社に本殿はなく、しめ縄の先に大神(おおみわ)神社と同様、原初の神道祭式とされる三ツ鳥居があるのみで、それに向かって礼拝する。檜原神社は、崇神天皇の時代、それまで宮中に祀っていた天照大神を宮中外に祀ることとし、この地に天照大神を主祭とする檜原神社を創建した。その後、天照大神の祭神は伊勢の地に移され、伊勢神宮となったことから、檜原神社は元伊勢神社と別称されている。この神社には、通常よく見られる形状の鳥居はなく、代わりに原初の神社形式とされる 2 本の直立した柱を繋ぐしめ縄が神社正面に起立し、その中には、万葉集に歌われている二上山が額縁に見事に納まって見える。

7 分ほど歩いた先には、世阿弥作の謡曲「三輪」の舞台となった玄賓庵がある。この庵は、平安時代初期、高徳僧で名医でもあった玄賓僧都が隠棲したと伝えられる庵で、不動明王は重文に指定されている。さらに 7 分進むと、大神神社の摂社狭井(さい)神社がある。この神社には、山全体が神域である三輪山に唯一参拝登山が可能な登山口があり、登山を希望する人は、社務所で 300 円払って、狭井神社のご神符を首に掛け、お祓いを受けて、登山する。頂上往復には、約 4km の道のりで、2 時間を要するという。山中での飲食は禁止、受付は 2:00pm までという。拝殿にお参りし、左に回ると、この地方で大変有名な御神水の取水口があり、備え付けのｺｯﾌﾟに御神水を汲んで飲んでみた。ｽﾃﾝﾚｽのｺｯﾌﾟは紫外線殺菌、取水口はﾌﾟｯｼｭ式と大変衛生に配慮した近代御神水供給設備だが、少しありがたみが薄れる気がする。大神神社は、何しろ酒の神、薬の神でも有る事から、この御神水は絶大なご利益を有すると信じられており、何本もの大きなﾎﾞﾄﾙに水を汲みに来る信者が多いようだ。

大神神社境内には、いくつもの摂社があるようだが、時間が押してきたので、この後直接大神神社拝殿に向かい、背後の三輪山に向かって、2 礼 2 拍 1 礼の作法で参拝を済ませた。神代の時代、万物を司る大物主大神(出雲の大國主大神と同一神と言われる) が三輪山に降臨したと伝えられ、崇神天皇の命により、この地に大神神社が祀られたという。御神体の三輪山と拝殿(現在の拝殿は 1664 年建立の重文)の間には、三ツ鳥居が置かれ、この三ツ鳥居をもって御神域との区切りとする原初の神道祭神形式が採られており、これらをもって我国最古の神社とされている。また、この地では奈良時代から小麦が栽培され、その小麦を使って手延べそうめんが作られ、伊勢街道を行き来する旅人にも供され、三輪そうめんはそうめん発祥地のそうめんとして珍重されている。また、酒の神でもある大神神社では、御神域に生育するご神木の杉の葉を用いて、杉玉を造っており、今年も味のよい新酒が出来るよう、全国の造り酒屋が大神神社に祈願に訪れ、杉玉をもらって行くのだという。

この後、大神神社の神宮寺だった平等院をお参りし、金屋の石仏で最後のﾄｲﾚ休憩とした。ここには頑丈な小屋の中に、鎌倉時代あるいは天平期作の石板浮彫伝弥勒菩薩像(左)と同釈迦如来像(右)の 2 体が、地元の人々によって大切に祀られている。集落の中を 10 分ほど進むと大和川(初瀬川)にぶつかり、その右岸に「仏教伝来之地碑」がある。飛鳥時代の頃には、大阪摂津浜から大和川を遡って、この地の船着場まで船便があり、大陸との交易も行われていた。欽明天皇(第 29 代/在位 539～574 年)の時代、百済より仏教がこの地に伝来。欽明天皇は大いに感銘して、布教しようとしたが、時の 2 大勢力であった蘇我氏は賛意を示したが、物部氏が反対して、両者の争いになった。蘇我氏が勝利し、以後仏教が国内に急速に広まったという。

初瀬川右岸堤防と伊勢街道を約 30 分歩いて大和朝倉駅に全員元気にｺﾞｰﾙｲﾝ。歩行距離約 15km、行動時間 7:20、歩行数 30000 歩の山辺のｳｫｰｷﾝｸﾞは天候に恵まれ、万葉のﾛﾏﾝに浸り、多くの歴史を学ぶ旅であった。

近鉄電車で 1 駅移動し、宿の送迎ﾊﾞｽが待つ長谷寺駅で下車し、長谷寺門前の創業 150 年老舗和風旅館井谷屋に到着。早速温泉大浴場で汗を流し、和風懐石料理に舌鼓。二間続きの和室に 3 人づつ別れ、ゆったり、ぐっすり眠った。この日の井谷屋はほぼ TTC 貸切のようで、静かで、食事も美味しく宿の対応も申し分なかった。

◆3/03(土)：本日一番のｲﾍﾞﾝﾄは 686 年に道明上人がこの地に「銅板法華説相図」を安置したのに始まり、727 年に徳道上人によって、後述する十一面観音像を祀った事を起源とする真言宗豊山派総本山/西国 33 ヶ所観音霊場第八番札所「長谷寺の朝の勤行」を体験すること。早朝に起床し、熱いお茶と名物の焼餅を食べて、6:30am に宿を出発。徒歩 5 分歩いて長谷寺門前から、仁王門を潜り、長谷寺名所の 399 段の屋根付「登廊」を本堂まで登った。左右の斜面には約 8000 株のﾎﾞﾀﾝが 4/下～5/上の開花を待ちかねたように芽を膨らませていた。展望抜群の舞台造りの本堂(国宝)に入り、経典を渡され、長谷寺の名入りの略肩衣を首から提げ、高さ 10m 余の日本最大の本尊十一面観音菩薩立像の前に正座して、朝行開始の 7:00AM を心静かに待った。本日の朝行参加者は TTC12 名の他に 4 名の 16 名。快晴の今朝、零下まで下がった早朝の寒さは風通しのよいｵｰﾌﾟﾝｽﾍﾟｰｽの本堂に座る我々には相当の修行だ。7:00AM になると 11 名の僧侶が本堂内陣に着座。我々16 名に付き沿う 2 名の僧侶を含めた 13 名の僧侶により、朝の勤行がはじまった。先ず、観音経が唱えられ、続いて般若心経、最後は、全国各地の神社仏閣の名前を読み上げ、天下の安寧を願う読経が約 25 分間響き渡る。読経は頭と呼ばれる僧侶の冒頭の発声に続いて、ﾘｽﾞﾙｶﾙな太鼓の音に合わせ、13 名の僧侶と、おぼつかない我々16 名も声を合わせ経を唱えるのだが、どのお経もﾃﾝﾎﾟが早く、経典の文字を目で追うのもおぼつかない状態だった。最後は 13 名の僧侶が我々の前で、大声で朝の挨拶をした後、舞台に出て、いろいろ

な方向を向いて、世の安寧を願って大声で経を唱えて(我々も僧侶に習って、手を合わせて、 (6/6)
頭を下げたまま、方向を変える)朝の勤行は終了になった。その後、僧侶のすすめに応じ、本堂内陣に入っての観音様の特別参観に参加した。本堂内陣に入ると、本堂祭壇からは見えなかった観音立像の全身を間近に見る事が出来る上、観音様の足に直接手で触れて、願い事をすることができる。長谷観音様式と呼ばれる身の丈 10m 余の十一面観音像の最大の特徴は、右手に地蔵様が持つ錫杖をもっているところだろうか。初代の観音像は近江の樟のご神木から、2 体の十一面観音像を彫り上げ、根元側の大きい観音菩薩像は長谷寺の本尊となり、少し小ぶりな 2 体目の観音像は川に流されたという。やがて海に流れ出た観音様は、鎌倉の海岸に流れ着き、その観音様を祀ったのが鎌倉の長谷寺だという。長谷寺は観音信仰の根本道場となり、平安時代には清少納言や紫式部も度々訪れ、現在では全国に 3000 寺と信徒 200 万人を護する真言宗豊山派総本山として、また「花の御寺」として信仰を集めている。なお、現在の観音様は 8 代目で 1538 年に東大寺仏生院実清良学作と伝えられ、その腹部には焼け残った 7 代目の頭部が収められているという(重文)。

滅多に味わえない貴重な体験に清々しい気分になり、境内の五重塔等の建物を見学して、宿に戻って朝食を済ませ、送迎ﾊﾞｽに送られて、長谷寺駅から近鉄電車で室生口大野駅に向かった。先ず、駅から 5 分ほど歩いた先にある大野寺を訪ねた。空海が 824 年に室生寺の西の大門として、阿弥陀如来を祀ったのを起源とする小寺だが、1207 年に興福寺の祈願により、目の前の宇陀川の対岸の断崖に、全長 13.8m の弥勒菩薩立像を線刻した断崖仏が完成し、彼岸に造立する弥勒浄土として信仰を集めてきたという。本堂内の本尊地蔵菩薩像等を参拝し、河原に下りて断崖佛を見学してから、いよいよ、今回一番の難所である標高 547m の門森峠越え（登り標高差約 300m/下り約 170m、歩行距離約 6km）の室生寺参詣道を歩いての室生寺参詣に向かう。20 分ほど車道を歩き、東海自然歩道入口の道標に案内されて、長谷川の細い流れに沿うように続く緩い上り調子の自然歩道に入った。昨年台風被害で、道が大分荒れていて歩きにくいとの室生口大野駅前観光案内所の情報だったが、山歩きに慣れた我々にとっては、歩くのに問題があるような場所はなかった。途中小休止して、歩きはじめて 7 分ほどして、先ほどの休憩した場所にｽﾄｯｸを忘れたことに気づいたﾒﾝﾊﾞがいたが、元気一杯の男性ﾒﾝﾊﾞが走って取りに行ってくれたお陰で、事なきを得た。

標高差 300m の峠越えに約 1:45 を要したが、峠を越えて室生寺山門までの標高差 170m の下り坂は約 35 分で下ってしまった。門前には本格的な会席料理を食べさせる食事処もあったが、我々は、すぐに、かつ、ﾘｰｿﾞﾅﾌﾞﾙな値段で昼食が食べられる食堂を教えてと御願いし、教えてもらった門前の老舗橋本旅館が経営する橋本食堂に入り、ｻﾞﾙｿﾊﾞや親子丼等を銘々注文して、空腹を満たした。ｻﾞｯｸを食堂に預け、早速室生寺参詣に向かった。先ず、国宝の平安初期建築の金堂に安置されている本尊釈迦如来立像、薬師如来、地蔵菩薩、文殊観音、文殊菩薩、十一面観音菩薩、十二神像等、平安時代初期を中心に作られた国宝・重文を鑑賞した。金堂の広くない堂内に所狭しと並ぶ平安時代の仏像群は圧巻だった。

続いて向かった、本堂は鎌倉時代建築の重文。堂内の中心には、室生寺本尊の如意輪観音像(平安時代作の重文)が、右膝を立て、右手でほほ杖をついたﾘﾗｯｸｽしたｽﾀｲﾙで、我々を迎えてくれた。荘厳な仏像もよいが、たまにはこんな陽気な仏像があってもよいと思った。見所の一つである弥勒堂（鎌倉時代･重文）は幕を被せて修理工事中で、見学できなかった。室生寺のもう一つの見所は平安時代初期に建築され、室生寺最古の建築物である国宝の五重塔だ。総高 16.1m と、屋外に立つ五重塔としては日本最小であるが、勾配が緩い檜皮葺の屋根は、朱塗りの柱と白壁と完璧にマッチして、小さいながら絶世の美しさであると、室生寺を代表する建築物として有名である。また、塔の頭頂部の九輪の上には、通常ならば水煙であるのに、この塔は、宝瓶を載せ、宝鐸をつり巡らせて、天蓋を作っており、他に例を見ない珍しい構造だという。

五重塔の横から、標高 443m の奥の院に登る 550 段余りの石段がある。標高 374m の山門を起点にすると、奥の院まで、標高差 70m を約 750 段の階段を上り下りすることになる。足の調子が今ひとつというﾒﾝﾊﾞと一度登ったことがあるというﾒﾝﾊﾞを除いた 10 名のﾒﾝﾊﾞで、奥の院まであっという間に登ってしまった。空身とはいえ、さすが昔取った杵柄だ。奥の院に立つ、鎌倉時代建築の御影堂(重文)を参拝し、断崖の上に立つ舞台造の位牌堂から、展望を楽しんでから往路を戻った。境内の至る所に、ｼｬｸﾅｹﾞが群生しており、花の咲く 5 月上旬には、山内がﾋﾟﾝｸ色に染まり、日本随一のｼｬｸﾅｹﾞ寺として多くの参拝客で賑わうという。また、紅葉や雪景色の室生寺も素晴らしいという。

かくして、ﾌｧｲﾅﾙｲﾍﾞﾝﾄ室生寺参拝は、歩行時間 3：15/行動時間 4:30 の実績をもって無事ﾌﾆｯｼｭを迎えた。京都発 18:32 発のひかり 532 号に余裕をもって乗車するため、室生寺前 15:30 発室生口大野駅行のﾊﾞｽに乗車。大阪上本町行の近鉄準急電車に乗車して、大和八木駅で、近鉄京都線急行に乗り換え、京都駅に新幹線発車時刻の 40 分前に無事到着。埼玉に帰る K さんと別れ、座席指定のひかり 532 号に乗車して、予定時刻の 21:30 頃に、本厚木駅に無事帰着した。なお、3 日目の歩行数は 22,000 歩だった。

出発時に悪天候に翻弄されたが、3 日間とも天候に恵まれ、訪ねたことのない名所旧跡を訪ね、沢山の国宝級仏像や寺社を鑑賞し、体験したことのない奈良二月堂修二会や長谷寺の朝の勤行も体験し、万葉のﾛﾏﾝに浸りながら日本最古の街道を歩くなど、中身の濃いｳｫｰｷﾝｸﾞ旅であったと、皆様に高評価を頂けたようで、立案者として安堵している。ｼﾆｱﾒﾝﾊﾞ向けのゆった～り山行として今後も同様の計画を実施したい。 以上